

建設委員会傍聴記

スーパー堤防の予算措置はなくなったが、従来通り進めるⅡ（土木部）
陳情の賛否は次回以降に結論を出す
Ⅱ（建設委員長）

1月11日（火）午前10時より新年1回目の建設委員会が開かれました。冒頭、渡部委員長（自民）は、スーパー堤防反対の陳情と、西小岩通り商店街の道路拡幅反対の陳情について、次回以降結論を出したい旨発言、各会派に結論を準備するよう求めました。以下、スーパー堤防の陳情について審議が行なわれました。

新村委員（生活者ネット） 国の来年度予算でスーパー堤防の予算措置はなくなったが、区はどうか考えるのか。

土木部 国は一般論の考え方を示したもので、区に対しては具体的説明はないので予定通り進める。

新村委員 予算の実施計画では「着手中を除く」とあるが、江戸川沿川の事業認可も下りていない段階では予算措置はないと考えるが。

土木部 分りません。国はトータルで考えているので、一旦止めた、と認識している。国は区画整理を認めると言っている。どの自治体にも説明がないので、我々には分らない。今秋をメドにスーパー堤防も、止められない箇所も一旦考える、と言ったことだ。

新村委員 国は一旦立ち止まっているのだから、区もそうして見直すべきで、18班の住民と一緒に考えるべき。

片山（副）委員（公明） 西野代表の促進署名の報告を。

土木部 12万1千を超える署名を12月27日に国交省へ提

出した。10数名と一緒に土木部も同行した。

片山（副）委員 18班については、区画整理が中心。地域では様々な声が上がりに、促進署名の効果が出てきた。18班は何らかの整理は必要と考える。区の現状を伝えながら、進めるべきだ。

片山（知）委員（自民） 18班はスーパー堤防と一緒に整理する計画だ。様子を見ると言うことで盛り土が出来ないと住民にはその計画が見えず問題だ。区はいつハッキリさせるのか明示すべき。

土木部 北小岩は液状化の心配がないので、スーパー堤防との兼ね合いは、お金だけだ。現計画の変更の必要はない、と考える。住民の合意が必要と思う。

片山（知）委員 18班は手法を変えずに進められる、この見解なら、スーパー堤防と切り離して説明する必要がある。撤回とか中止を言うのは如何なものか。進める必要性を認識してもらわなければならない。自民としては、継続して欲しい。

須田委員（共産） 促進署名については、住民の声として練られていないので問題があった。土木部長はスーパー堤防なのか区画整理なのか、すり替えてきた。この問題は行政の意向が強く働いている。そんな中で国も変わってきたのでスーパー堤防事業が本当に必要なか立ち止まって考えるべきだ。区の治水対策は情緒的だ。区は区画整理でも盛り土の計画だ。通常の整地費3億5千万円の予算は盛り土で計上した、ということか。

土木部 街の問題解決のため、盛り土が必要ということだ。計上した。

須田委員 それが3億5千万円ということか。スーパー堤防と切り離して区画整理でやる、と言ったことは区が持つと言ったことなのか。

渡部委員長（自民） 各会派の意見もあるだろうが、意見も分かれている所だ。本日は継続。



退去を余儀なくされた跡地。まるで爆撃の跡のよう（18班）



住宅撤去後も草莽で荒れ果てたままの篠崎公園地区

シンポジウムのお知らせ

4月の区長・区議選に向けて、各会派がスーパー堤防計画に対してどのような政策をもつて臨むのか聞いてみようと思います。ぜひ、ご予定ください。

とき：3月21日（月）春分の日
午前10時～12時

ところ：小岩アーバンプラザ
第1集会室（2F）

参加費：無料

主催：北小岩・18班・篠崎の3地区

（スーパー堤防・街づくりを考える会
18班スーパー堤防と街づくりを考える会
スーパー堤防と道路問題を考える住民の会）

とんでもない堤防で
とんでもない短絡試行

安中茂作の
スーパー川柳
第六十二弾
「短絡試行」Ⅱ「短絡思考」？